

八幡平市人口ビジョン及び総合戦略

<骨子案>

平成 27 年 8 月 18 日

【資料－２に基づく議論の視点】

- (1) 1～3頁は、前回提出した資料による分析結果から導き出された課題の改善に向けて、総合戦略に盛り込むキーワード（案）として整理したものです。
- (2) 4頁は、総合戦略の展開によって、市が目指す将来人口について、基本的な考え方を案としてまとめたものです。
- (3) 7頁は、市の将来人口シミュレーションを4つのパターンによって推計したものです。この推計値をもとに、総合戦略の展開によって、2040年又は2060年の市の人口を展望する「八幡平市人口ビジョン」を総合戦略と合わせて策定していきます。
- (4) 11頁は、国の総合戦略における4つの基本目標を勘案し、本市の政策の基本目標をたたき台として掲げたものです。
- (5) 12頁以降は、現状分析による本市の強みを生かし、課題のキーワードや将来の人口に関する基本的な考え方をもとに、施策パッケージとして17のプロジェクトをたたき台としてまとめたものです。

以上のとおり、繰り返しになりますが、本資料は、本日の議論のたたき台としてまとめたものです。委員の皆様からは、このたたき台に限らず、色々な角度からご意見をいただきたいと思っておりますし、その結果につきましては、総合戦略に反映させてまいります。

2 今後の進め方

総合戦略に盛り込む施策の検討につきましては、今後、次に掲げる対象とスケジュールで取り組んでまいります。

対象	時期	備考
各地域振興協議会との意見交換	7月23日～9月末	五日市地区、田頭地区の2か所は実施済
ワーキンググループ	9月中	若手職員による検討
高校生・大学生との意見交換	9月中	
各種団体との意見交換	随時	
パブリックコメント	11月	

人口ビジョン及び総合戦略は、本年末の策定を目指します。

各対象との意見交換及び検討結果につきましては、随時、本有識者会議に諮ってまいります。

目次

1	八幡平市の人口・戦略まちづくりに係る主な課題.....	1
1)	人口に係る現状・動向や留意すべき事項について（前回会議資料の総括）	1
2)	人口・戦略まちづくりに係る主な課題のキーワード（案）	3
2	将来の人口に関する基本的な考え方（案）	4
1)	将来人口に関する基本方針について	4
2)	目指す将来人口について	6
3	総合戦略の骨子（案）	11
1)	政策の基本目標（案）について	11
2)	政策の基本目標に対応した主要施策の方向（案）について	12

1 八幡平市の人口・まちづくり戦略に係る主な課題

1) 人口に係る現状・動向や留意すべき事項について（前回会議資料の総括）

① 人口（現状・動向と将来人口の懸念）について

【人口分析結果】

● 人口動向の概要

- 人口は永く減少傾向が続いているが、平成 12（2000）年以降は減少が加速化
- 年齢構成は、年少・生産年齢人口が減少、老年人口は増加し、少子高齢化が進展
- 年少人口の減少が大きく、老年人口は頭打ち傾向がみられる
- 人口減少の要因は、自然減、社会減にある（自然増の傾向が 1995 年に自然減に転じた）

● 人口減少の具体的内容や留意すべき事項

- 自然減は、出生者数の減少と死亡者数の増加が要因
 - ◇ 出生者数の減少は、女性人口の減少、未婚率の上昇、出生率の低迷等の影響と想定
 - ◇ 死亡者数の増大は、老年人口増加と長寿命化が影響と想定
- 社会減は、転入者の減少と、それを上回る転出者の増加が要因
 - ◇ 転出は、進学や就職理由による若年層（高卒～大卒時期）の流出が主な要因
 - ◇ 女性は、上記に結婚の要因が加わるため、34 歳位まで流出の影響あり
 - ◇ U ターンは少なく、わずかに定年退職後の少数が見られるのみ

【将来推計(試算)結果】

● 将来人口への懸念（将来推計（試算）を踏まえ）

- 現状のまま推移すると、一層の人口減少と少子高齢化が進展し、まちの活力維持に懸念
 - ◇ 2040 年には、2010 年人口の 52%に減少し、15 千人未満に
 - ◇ 移動率の縮小を想定した推計でも、16.5 千人（57%）未満に
 - ◇ 2020 年頃には、微増傾向にある老年人口も減少に
 - ◇ 75 歳以上人口・女性高齢者の増大が進展（単身高齢者や要介護者の増加が懸念）

② 人口問題の要因や留意すべきまちの特性について

【市民意向分析結果】

- 定住意向
 - 定住意向は高い
 - 「良好な自然環境」や「通勤・通学のしやすさ」が主な要因
- 現在のまちの状況への不満（評価が低いもの）
 - 評価が低いのは、「雇用・働き先の充実」が突出し、「就業支援」「協働による地域の課題解決」「医療・福祉」が続く
- これからの重要な産業
 - 「農業」「福祉サービス」「医療に関わる事業」「観光サービス」「商業」の順に高い
- 雇用に関するニーズ（県外在住者の要望）
 - 帰って働きたい意向は40%あり（特に男性）
 - されど、「希望業種がない」が大きな壁となっている
 - ◇ 希望業種は、Uターン意向ありの人で「学術研究、専門・技術サービス」「情報通信業」「農林漁業」「医療、福祉」「宿泊業、飲食サービス」「教育、学習支援」「製造業」の順に高い
 - さらに、「将来性・事業性・安定性」や「給料が安い」ことへの不安も伺える
 - ◇ Uターン意向ありの人の希望年収は、300～600万が66%、600万以上が20%
 - ◇ 環境面でのマイナス理由としては、「便利な所で暮らしたい」「車がない」「冬場の活動のしにくさ」「田舎で人間関係が面倒」等の意見もあり
- 転出者のニーズ（市への不満）
 - 「交通機関や道路の利便性、通勤・通学の利便さ」など通勤・通学圏としての特性が伺える
 - ◇ 転出者の「市への不満」で高いのは、「交通機関や道路の利便性」「買い物環境」「通勤・通学の利便さ」
 - ◇ 転出者の「望むこと」で高いのは、上記不満に加え、「医療」や「子育て環境」
- 子育て環境へのニーズ
 - 「子どもの医療費補助」や「子育てをしやすい職場環境づくり」が高い
- その他、まちの魅力
 - 現在のまちの感想について、「犯罪や身の回りの危険性（の少なさ）」への評価が高い
 - 現在「他の地域にない良さをもったまち」に対する評価は低位（正負の評価が拮抗）

【現状分析結果】

- 八幡平市の主な魅力（活かすべき特性・強み）
 - 豊かな自然、きれいな水、美しい景観
 - 特色ある農業（りんどう、ほうれん草、畜産、漆など）
 - 盛岡広域圏内で第3位の観光入込数（圏域の2割）
 - 豊富な観光関連資源（自然体験、スキー、温泉、豊富な宿泊施設）
 - 多種多様な競技用スポーツ施設が充実
 - 日本初の地熱発電所など、地熱ほか再生可能エネルギー利用の取組み
 - 立地条件（県都盛岡に隣接、高速道路など）、など
 - 盛岡市・滝沢市と比べた、「持家取得のしやすさ、1次産業の高さ、治安の良さ」等の利点・強み
- 産業振興面での様々な問題点
 - 市内企業の人材確保の厳しさ、後継者不足
 - 観光面における通年利用、宿泊利用の促進の必要性

2) 人口・まちづくり戦略に係る主な課題のキーワード（案）

① 人口問題の改善に向けた課題

- **社会人口の転出抑制（特に若者や女性の定住促進）が必要**
 - ◇ 若者を中心とする就職に伴う転出の抑制
 - ➡ 就業環境の充実（業種や所得の強化）
 - ➡ 働きがいのある企業の育成（生きがいや成長性など）
 - ➡ 地元就業の支援（企業理解を深める機会醸成、マッチング支援など）
 - ◇ 若者を中心とする進学に伴う転出の抑制
 - ➡ 就学環境の魅力強化（平館高等学校の魅力強化など）
 - ➡ 地元就学の支援（地元での進学・就職の連携・支援など）
 - ◇ 結婚等に伴う女性の流出抑制
- **人口バランスの改善につながる結婚数・出産数の増加が必要**
 - ◇ 結婚数の増大
 - ➡ 市内定住意向者の婚活支援（出会い支援など）
 - ➡ 新婚受入れ環境の充実（生活支援など）
 - ◇ 出産数の増大
 - ➡ 妊娠・出産・乳幼児・児童など、子育て時期に応じた子育て支援強化
 - ➡ 共働きしやすい環境づくり
 - ➡ 早婚対策や出産を奨励し、支えあう環境づくり
- **八幡平市の魅力を活かした定住促進（新たな人口流入の受け皿環境強化）も必要**
 - ◇ UIターンや起業の支援強化
 - ➡ 居住や就職・起業等への支援強化（情報提供、受入れ体制、各種支援）
 - ➡ 地域資源等を活かした魅力ある定住促進事業の強化
- **人口回復やまちのPRにつながる観光交流人口や一時居住等の促進も必要**
- **高齢化の一層の進展に伴う対策も必要**
 - ◇ 高齢者の健康寿命の拡大（要介護者増加抑制へ）
 - ◇ アクティブシニアの増大（地域貢献、雇用参加など）
 - ◇ 多世代交流の強化（生きがい対策など）

② 人口問題改善に向けた、効果的なまちづくりに向けた課題

- **地域資源を最大限に活かした取組みの活性化**
 - ➡ 観光、農畜産業・食、自然・地熱、健康・スポーツ資源など
 - ➡ 地域の低未利用資源の活用（空き家、空き店舗、ペンションなど）
 - ➡ 地元企業・団体等の活動意欲を活かした取組みの活性化
- **広域連携の取組み強化**
 - ➡ 広域連携促進（盛岡広域管内市町）による産業・観光交流振興の強化
- **まちや地域の魅力を内外に発信するシティ・プロモーションの強化も重要**

2 将来の人口に関する基本的な考え方（案）

1) 将来人口に関する基本方針について

本市の人口は、現状のままでは、自然減、社会減による人口減少の加速化や、少子高齢化の進展による人口バランスの更なる悪化が懸念される。

そうした人口問題は、経済活動や都市経営面等で様々なマイナス影響をもたらす（次頁参照）ことから、以下の方向を目指していくものとする。

① 若年層・女性・子育て層の定住促進による、人口回復と年齢構成の改善

若年層・女性・子育て層について、雇用環境の充実と併せて、流出抑制とUIターン意向者の吸引を図り、次世代を牽引する子どもたちや学生、子育て層や生産年齢層が、住み続けたい、働きたい、帰りたいと思えるまちづくりを目指すことにより、人口回復と年齢構成バランスの改善を図る。

●女性・結婚・出産・子育て層の増大

結婚・出産・子育てしやすい環境を充実していくことにより、女性人口、結婚数、出生率、出産数の増大を図るとともに、子育て世代の定着化と流入促進を図る。

●若者・生産年齢人口および雇用人口の増大

雇用環境や若者が活躍し生きがいをもてる環境を充実していくことにより、若者や生産年齢人口の定着化と地元就職率向上、さらにはUIターン意向者等の流入促進を図り、雇用拡大による昼間人口の増大と各種経済活動の活性化を図る。

② 高齢者の元気増進、観光客入込みや市民活動量の活性化、八幡平ファン拡大等による、まちの活力強化

人口減少を維持・増加に転じていくには課題が多いことから、まちの活力や市民の暮らしの質を短中期的に維持・向上させていくためにも、高齢者の元気増進や観光入込み客の拡大、市民等の活動量（交流や地域貢献活動など）の増大を目指していくものとする。また、八幡平市が大好きなひと（ファン）を内外に増やしていくことにより、ファンがファンを呼び、支えあうネットワークを強化していくようなまちづくりを目指していくものとする。

●健康で元気な高齢者の増大

健康スポーツ関連の多様な地域資源を最大限に活用しつつ、市民の健康増進活動を活性化することにより、将来増大する後期高齢者の要介護者数の抑制と健康長寿の実現を図る。

●観光交流人口（観光入込み客数）の増大

国際・広域的な観光入込み客数の増加を図っていくことにより、観光交流人口（観光入込み客数）の増大を図り、各種経済活動の活性化や、まちの賑わい強化を図る。

●各地域における市民等の活動量（交流や地域貢献活動など）の増大

生涯学習・創作活動・交流活動や地域貢献活動など、各地域の観光・交流資源等を活かした市民の生きがい増進やいきいきとした暮らしの実現につながるような活動の増大（外部支援者との交流も含めて）を図り、各地域の元気の維持増進を図る。

●八幡平市が大好きな人やファンの増大

地方創生を契機とする一層の都市間競争の激化が想定される中であって、効果的効率的にまちの人口や活力の維持増進を図っていくためには、八幡平市の魅力である「豊かな自然の中で、地の恵みを楽しみながら、五感にわたる感動や、心のやすらぎや癒しを体感するとともに、人との絆を大切にしながら、健康を育み、心豊かな暮らしを実現する」ライフスタイルを最大限に高め、そこに共感して、住み、働き、遊び、憩う人を増やしていくことが重要であり、八幡平市が大好きな人やファンの拡大を図る。

【参考】 将来人口(定住人口)に関する懸念

- 人口減少と年齢構成バランスの悪化による都市活力の停滞・維持困難化
 - 人口減少のマイナス影響
 - ◇ 税収・生産活動・地域内消費等の減少
 - ◇ 上記に伴う企業等の撤退・廃業
 - ◇ 公共施設・サービス維持や新たな投資の困難化
 - ◇ まちの機能・サービス・コミュニティを支える人的基盤の不足
 - ◇ 空地・空き家・耕作放棄地等の増大、など
 - 年齢構成バランス悪化（少子高齢化）のマイナス影響
 - ◇ 超高齢化による医療・福祉・介護費用の増大
 - ◇ 学校・保育園等の維持困難化
 - ◇ まちの活力・未来の発展を支える人材の不足、など
- 上記に伴う、更なる人口減少・少子高齢化の進展（悪循環化、競争力低下）

2) 目指す将来人口について

■ 将来人口の展望において特に重視する方向(案)

● 出生率の向上を図り、自然人口の回復を目指す

将来人口への回復効果については、社会人口は広域的な人口の取り合いになることから、人口の絶対量の増大に寄与する出生率の向上を図る方向が有効である。

(社会人口は日本全体や東北圏・岩手県の人口総量が大きく増えない限りは、その実現性は競合都市の成長性や付加価値化の方向性など都市間競争の影響を受けやすい)

このため、出生率(合計特殊出生率)の向上を図るものとする。

(幼少期を暮らすことによる定住促進(Uターン含む)へのプラス効果や、子育てしやすい環境の形成が育成され、子育て層等の一層の吸引拡大が期待される)

合計特殊出生率の将来目標値については、国や県が目指す人口置換水準2.07人も視野に入れつつも、現況値(2012年で1.40)との乖離が大きいことから、出生率の段階的なアップを目指していく。(具体的な数値目標は今後検討・調整していく方針)

● 人口移動率の回復(流出抑制)を図り、定着率の高いまちを目指す

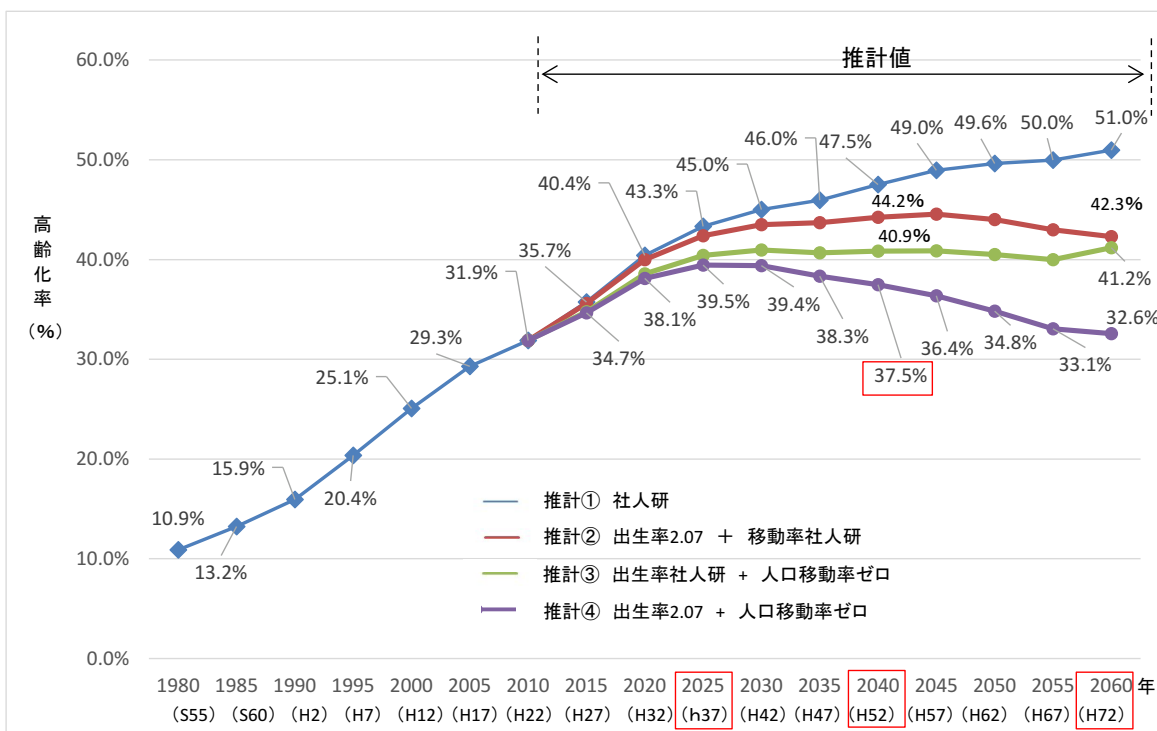
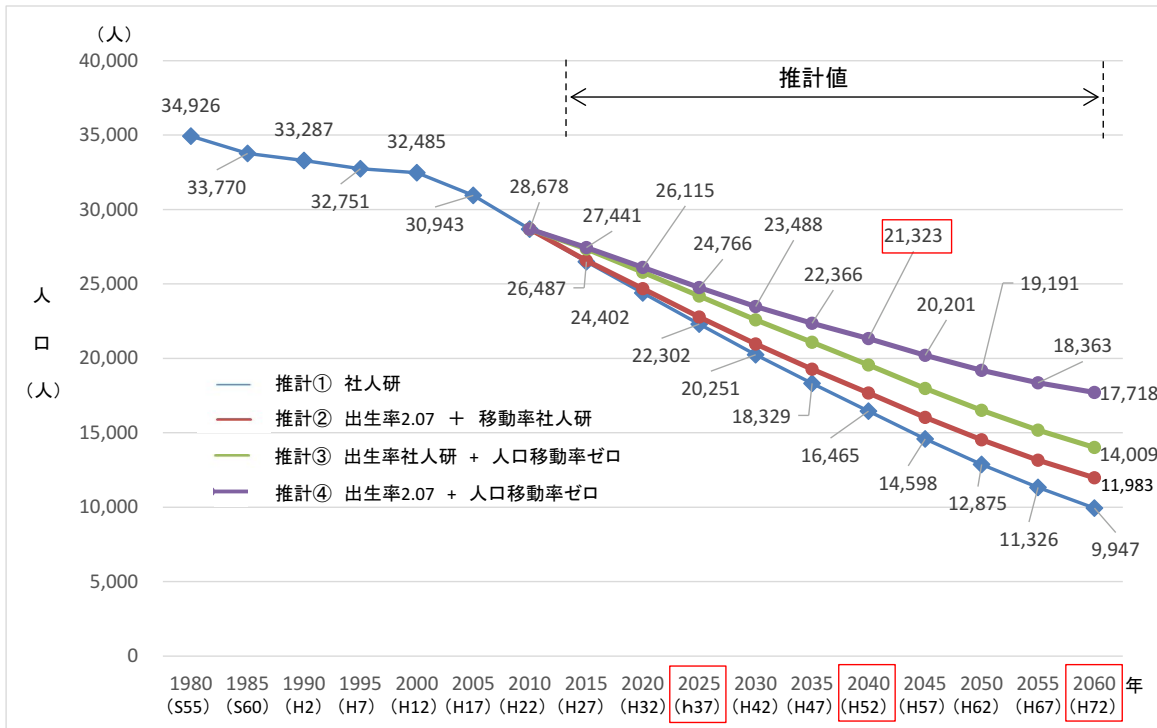
現居住者の居住継続、世帯分離層の地元定着化(同居・近居など)の促進を図り、とりわけ若年層の流出抑制を図るとともに、Uターン層や地方への田舎暮らし層の受け皿環境・体制強化等により、人口移動率の回復を図り、地元定着率の高いまちづくりを目指す。

人口移動率の将来目標値については、県の人口ビジョンの目標値も踏まえつつ、人口移動率の回復(若年層を中心とする流出抑制)を目指していく。(具体的な数値目標は今後検討・調整していく方針)

【参考資料①】 八幡平市の将来人口シミュレーション(案)

社人研の推計によると、本市の高齢化率（65歳以上人口比率）は、2040（H52）年には47.5%まで上昇し、総人口は16,465人まで大きく減少する見通しである。

出生率（合計特殊出生率）を国が目指す人口置換水準 2.07 まで高め、人口移動率も更にゼロまで高めた場合（推計④）は、高齢化率は2025（H37）年の39.5%をピークに2040（H42）年には37.5%に軽減され、総人口も減少傾向は続くものの21,323人まで回復するものと想定される。



<参考;シミュレーションの補足説明>

【検討条件】

○ シミュレーション1 (推計②)

◇ 出生率

・2030年に国民の希望出生率である1.80を達成と設定

・2040年に人口置換水準である2.07を達成と設定

年	2015年 (平成27年)	2020年 (平成32年)	2025年 (平成37年)	2030年 (平成42年)	2035年 (平成47年)	2040年 (平成52年)	2045年 (平成57年)	2050年 (平成62年)	2055年 (平成67年)	2060年 (平成72年)
今回設定の 合計特殊 出生率	1.40	1.60	1.70	1.80	1.93	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
(参考) 社人研の 合計特殊 出生率	1.24	1.21	1.19	1.19	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20

※合計特殊出生率は、国と県の人口ビジョンを踏まえて設定（国は2020年1.6、2030年1.80、2040年2.07 県は、2030年1.80、2040年2.07）

◇ 移動率は社人研と同じ設定

○ シミュレーション2 (推計③)

◇ 出生率

※社人研と同じ

◇ 移動率は±0と設定

○ シミュレーション3 (推計④)

◇ 出生率

※シミュレーション1と同じ

◇ 移動率は±0と設定

<参考：社人研推計の各種設定の考え方>

○出生率に関する仮定

・原則として、平成22（2010年）年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成27（2015）年以降52（2040）年まで一定として市町村ごとに仮定

○移動に関する仮定

・原則として、平成17（2005）～22（2010）年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、平成27（2015）～32（2020）年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を平成47（2035）～52（2040）年まで一定と仮定。

合計特殊出生率と人口移動が改善されると、シミュレーション1では、2040年（H52）年の推計人口は、総人口17,681人、シミュレーション2では、19,562人、シミュレーション3では、21,323人となる。

【人口推計の結果】

● 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

○ シミュレーション1 (推計②)による将来人口推計

◇ 総人口17,681人 (2040)

年少人口 生産年齢人口 老年人口

◇ 3階級別の割合 11.4% : 44.4% : 44.2%

○ シミュレーション2 (推計③)による将来人口推計

◇ 総人口19,562人 (2040)

年少人口 生産年齢人口 老年人口

◇ 3階級別の割合 8.7% : 50.5% : 40.9%

○ シミュレーション3 (推計④)による将来人口推計

◇ 総人口21,323人 (2040)

年少人口 生産年齢人口 老年人口

◇ 3階級別の割合 13.5% : 49.0% : 37.5%

<参考；各推計結果のバックデータの補足説明>

		実績	推計①		
		2010年 (平成22年)	2025年 (平成37年)	2040年 (平成52年)	2060年 (平成72年)
総人口(人)		28,678 (人)	22,302	16,465	9,947
年齢別人口	0～14歳	3,105 (人) 10.8 (%)	1,767 7.9	1,189 7.2	616 6.2
	15～64歳	16,431 (人) 57.3 (%)	10,874 48.8	7,454 45.3	4,261 42.8
	65歳以上	9,142 (人) 31.9 (%)	9,661 43.3	7,822 47.5	5,070 51.0

		実績	推計②		
		2010年 (平成22年)	2025年 (平成37年)	2040年 (平成52年)	2060年 (平成72年)
総人口(人)		28,678 (人)	22,786	17,681	11,983
年齢別人口	0～14歳	3,105 (人) 10.8 (%)	2,255 9.9	2,011 11.4	1,462 12.2
	15～64歳	16,431 (人) 57.3 (%)	10,872 47.7	7,848 44.4	5,451 45.5
	65歳以上	9,142 (人) 31.9 (%)	9,660 42.4	7,822 44.2	5,070 42.3

		実績	推計③		
		2010年 (平成22年)	2025年 (平成37年)	2040年 (平成52年)	2060年 (平成72年)
総人口(人)		28,678 (人)	24,180	19,562	14,009
年齢別人口	0～14歳	3,105 (人) 10.8 (%)	2,092 8.7	1,700 8.7	1,080 7.7
	15～64歳	16,431 (人) 57.3 (%)	12,317 50.9	9,871 50.5	7,156 51.1
	65歳以上	9,142 (人) 31.9 (%)	9,771 40.4	7,991 40.9	5,772 41.2

		実績	推計④		
		2010年 (平成22年)	2025年 (平成37年)	2040年 (平成52年)	2060年 (平成72年)
総人口(人)		28,678 (人)	24,766	21,323	17,718
年齢別人口	0～14歳	3,105 (人) 10.8 (%)	2,678 10.8	2,876 13.5	2,579 14.6
	15～64歳	16,431 (人) 57.3 (%)	12,317 49.7	10,455 49.0	9,367 52.9
	65歳以上	9,142 (人) 31.9 (%)	9,771 39.5	7,991 37.5	5,772 32.6

【参考資料②】岩手県人口ビジョン(仮称)(素案)における人口の展望

■ ふるさと振興の3つの柱

① やりがいと生活を支える所得が得られる仕事を創出し、岩手への新たな人の流れの創出を目指します。

国が掲げる東京一極集中の是正に呼应し、若者が仕事に求めるやりがいや、満足に生活するための所得の向上などにより、より生きがいを感じる、働きやすい、住みやすい岩手を実現し、若者をはじめ多くの方々が岩手に向かう人の流れを生み出していく必要があります。

② 社会全体で子育てを支援し、出生率の向上を目指します。

子育てに関する恵まれた家庭環境や、岩手が持つ豊かな自然、安全・安心な食など、子育てに適した環境を更に伸ばしながら、就労や出会い、結婚、妊娠・出産、子育てを支援し、中長期的に人口置換水準まで出生率の向上を図っていく必要があります。

③ 医療・福祉や文化、教育など豊かなふるさとを支える基盤の強化を進め、地域の魅力向上を目指します。

多くの県民が、岩手でふるさとへの思いにあふれ、心豊かに安心して暮らしていくことが出来るよう、地域の魅力を最大限に高めていく必要があります。

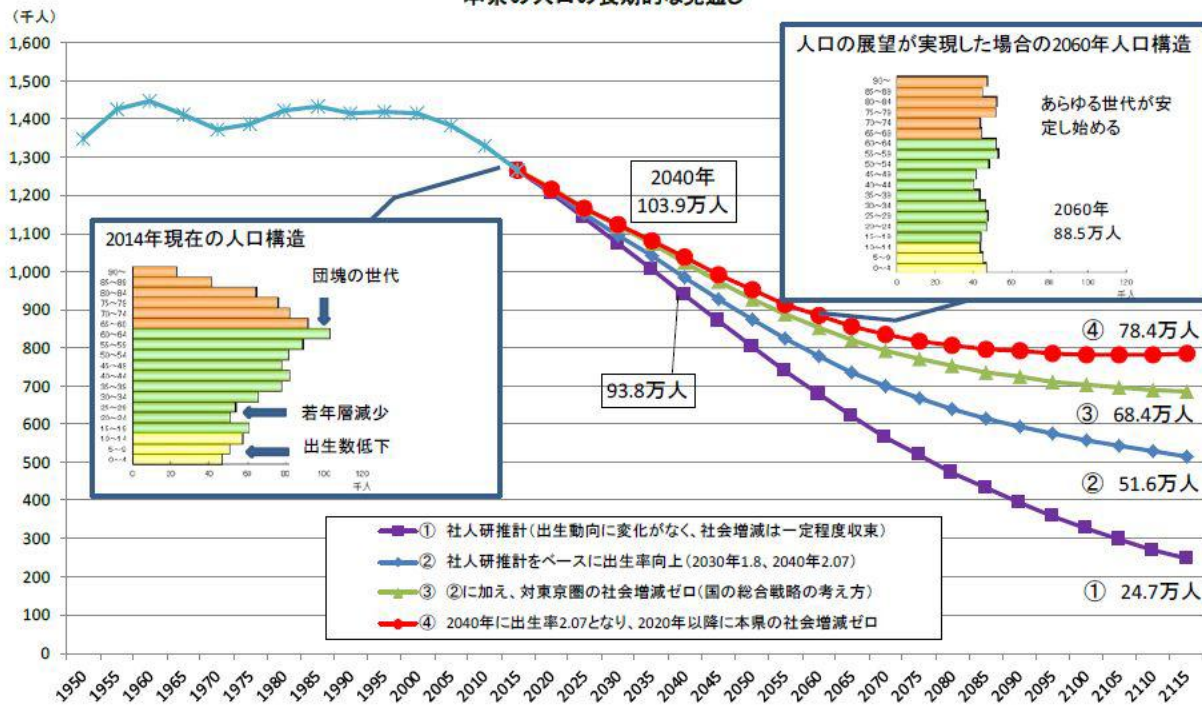
◎ 人口の展望

○ 仮に、合計特殊出生率が人口置換水準である2.07まで向上しても、県からの転出が県への転入を上回る社会減の状況が続く限り、本県の人口は2115年以降も減少を続けます。(下図①～③)

○ 活力ある岩手であり続けるために、人口減少に歯止めをかけ、超長期的な人口増の可能性も視野に、2040年に100万人程度の人口を確保します。

○ 2040年以降においても、合計特殊出生率や社会増減が安定を続けると、2060年には、あらゆる世代の人口が安定し始め、2110年頃には、岩手県の人口は80万人になると見込まれます。

本県の人口の長期的な見通し



※超長期の人口展望

中長期的に、岩手県の政策的な目標は、岩手の活力を低下させる社会減を抑制し、転出・転入を均衡させるとともに、国を挙げた結婚支援や子育て支援により、出生率の向上を図ることです。

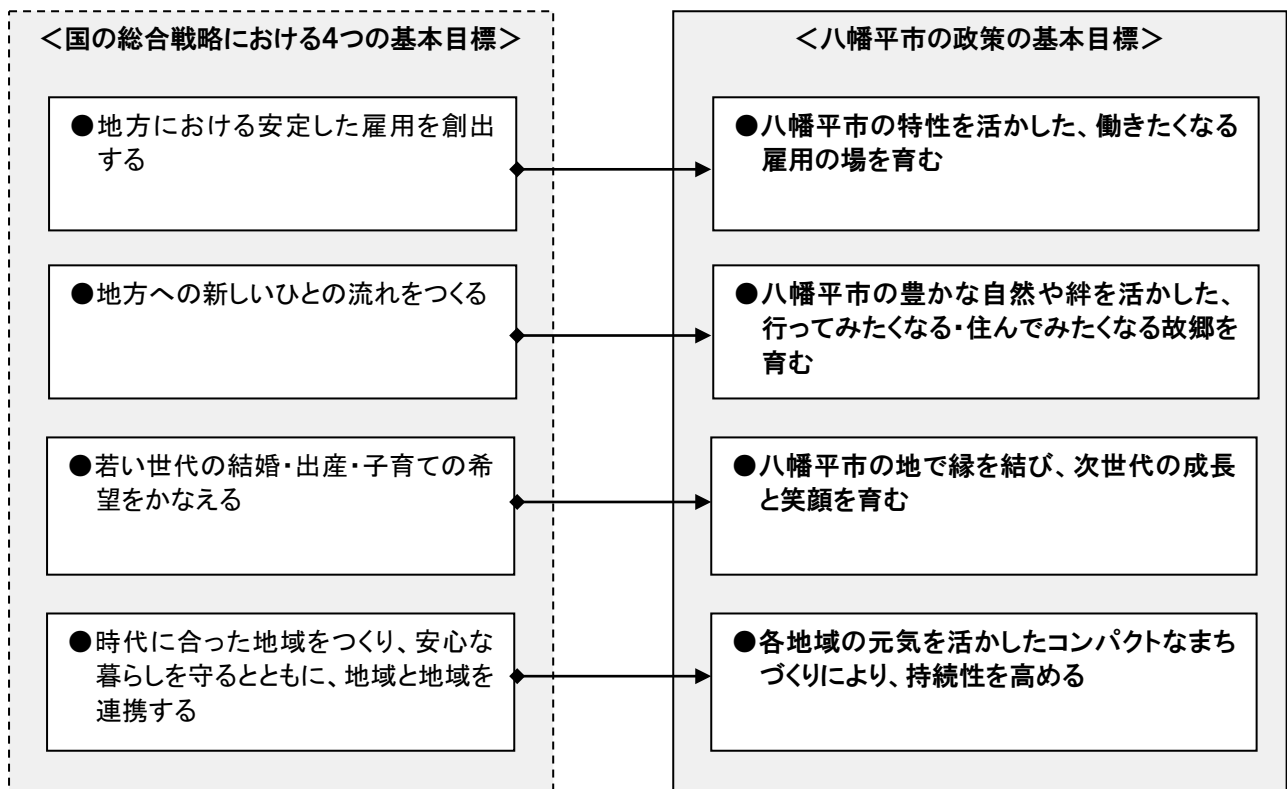
一方、国立社会保障・人口問題研究所の調査では、夫婦の理想子ども数は2.42人です。諸外国には、理想の子ども数が2人を下回る国もある中、日本、岩手には未だ大きな希望があります。

本県において、出生率が人口置換水準を更に上回り、仮に2.3程度(注)まで向上すると仮定した場合、本県の人口は、2095年に上昇局面を迎えます。(注)出生率2.3は、全国平均の出生率が2.0程度であった1960年当時における本県の出生率。

3 総合戦略の骨子（案）

1) 政策の基本目標（案）について

八幡平市の総合戦略における政策の基本目標については、国の総合戦略における基本目標を踏まえつつ、以下の4つの目標の柱を掲げ、取組んでいくものとする。



※上図の関係は、主な関係の表記であり、相互に連携した波及効果の高いまちづくりを目指す

2) 政策の基本目標に対応した主要施策の方向（案）について

※青字は、地方創生先行型交付金事業

政策の基本目標	現総合計画後期基本計画における施策の取組状況		新たな施策展開強化の方向性（案）
	左記に関連する施策の主な内容	平成 27 年度の主な事業	先導的な施策パッケージの方向（メニュー例）
<p>【目標①】 ★八幡平市の特性を活かした、働きたくなる雇用の場を育む ～八幡平市の豊かな自然の恵みを最大限に活かした、生きがい・創造の産業ブランドづくり～</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">若者にも夢と生きがいを与えるような、八幡平の個性を活かした、一層創造的なブランド育成の環境づくり</p> <p><基本的課題への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○若者にも魅力ある雇用の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・生きがい、自己実現の場 ・競争力・ブランド・成長性の強化 ・6次産業化や働き先・選択肢の充実 ・所得向上 ・後継者育成や新規就業・起業支援 ○地元企業・産業への愛着・誇りの醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃からの学習・体験機会の強化 ・マッチングなど就活の支援 <p><特性を活かした展開強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブランド素材の育成強化 <ul style="list-style-type: none"> ・りんどう・ほうれんそう・畜産・漆等のブランド力強化（新たな商品開発、販路や生産性の強化など） ・地熱エネルギー等の資源や取組みを活かした展開強化 ・一大観光地として観光交流振興と連動した商工業・農畜産業等振興 ・地元企業のチャレンジを支援する体制強化（総合的なPR強化、市内資源循環など） ○新たな展開方向の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・若者や女性の起業を支援する拠点づくり ・大学・金融機関等の多様な機関連携による地方創生の流れの活用促進 	<p>《農業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の青年就農給付金交付事業に加え、市独自の新規就農者等支援事業を実施し、これまで、35名が新規に就農。また、国内トップブランドのりんどうの農家所得向上のため、新たな新品種開発事業等に取り組み、10億円を超える販売額を達成している。 ・畜産農家所得向上のため、八幡平牛ブランドの確立に取り組んでいる。 <p>《工業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問や関係団体等の連携による誘致活動や工業団地の整備により、現在28社の誘致企業が立地。また、空き工場等への入居支援、中小企業振興資金貸付金利子の補助など既存企業の経営支援も実施し、雇用の確保に支援している。 <p>《商業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市商工会が行う共通商品券への支援や商店街イメージアップ事業及び商工業金融対策事業による貸付金利子の補助など支援を行い、商業者の経営支援を実施し、商業販売額の向上と雇用の確保に支援している。 <p>《雇用対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の緊急雇用創出事業等を活用し、ウィンタースポーツ誘客対策事業などを行い、37名の雇用を確保。また、ハローワークとの連携により求人情報の周知に努めている。 <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と大学等との共同研究による技術開発、販路拡大等につなげるため、産学連携支援を行っている。 ・安比塗の振興策として、東京でのPR活動や各種情報発信を通じて、ブランド力の向上に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規就農者支援事業、青年就農給付金事業、八幡平市ブランド牛推進事業、花き研究開発センター管理運営事業、りんどう生産規模拡大対策事業、りんどう優良種苗供給支援事業、親株増殖事業、八幡平牛ブランド牛推進事業など ○ 企業誘致推進事業、空き工場等賃貸料補助金交付事業、起業家支援対策事業、中小企業振興資金融資制度など ○ 商工業金融対策事業、商店街活性化事業、全国展開支援事業など ○ 緊急雇用創出事業、雇用促進対策事業 ○ 産学官共同研究事業、漆工技術研究センター事業、安比塗漆器工房事業 	<p>●八幡平の農（みのり）ブランド強化プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界的・広域的ブランドであるりんどう等の生産体制の強化（海外生産基地拡大も含む） ○工場適地や空き工場・店舗等を活用した若者や女性主体の就業・起業の拠点づくり <ul style="list-style-type: none"> ・創作工房、チャレンジショップ等の整備 ・女性・若者向けの賃貸ファクトリー群の整備 ・共同加工施設等の整備 ・起業支援と受け入れ体制の充実 ・子育て支援型企業の集積、支援体制の強化 ・工場適地整備 ○創作イベントや地産地消の促進 <p>●大学連携による産業・雇用・人材強化（COC+）プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学等連携によるブランド育成・地元就職支援のプラットフォームづくり <ul style="list-style-type: none"> ・大学連携による研究・開発支援（商品・デザインの企画・開発や広告、イベント等の支援） ・金融機関等との多様な期間連携による、創造的な起業・創業を支援する体制づくり（資金・情報等の支援） ・海外見本市への企画開発と出展強化 ・地元企業への就職支援（企業学習・就活・インターシップや人材育成等の支援、地元企業と地元学生のマッチング支援） <p>●自然エネルギーを活かした地域活性化プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○八幡平市の自然資源（地熱・小水力等）を活かした再生可能エネルギー・資源循環の取組み強化 ○地熱エネルギーを需要家に供給するインフラ網の強化と、事業の仕組み・体制づくり ○地熱を活かした新たな商品開発・ブランド化

			<p>●<u>農(みのり)と輝(ひかり)の職場アピールプロジェクト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域職場学習プログラムの強化 ○インターンシップ制度の充実(職場以外の産業やまちの紹介や交流の強化) ○八幡平市マイスター(職人等)の紹介ツール作成
<p>【目標②】 ★八幡平市の豊かな自然や絆を活かした、行ってみたい・住んでみたい故郷を育む ～自然の恵みの中でひとが輝く、スローライフの故郷づくり～ ～ホスピタリティあふれる癒しと収穫と健康のリゾート拠点づくり～</p> <p>豊かな自然の恵みと、健康スポーツ資源を活かして、心豊かに過ごしたい人が集まる故郷、観光拠点づくり(観光地としての魅力が、暮らしの魅力につながるまちづくりの一層の強化)</p> <p><基本的課題への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちを活性化する観光交流人口の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・滞在型・回遊(滞留)型観光の拡大 ・通年入込み客の増大 ・外国人増大 ・リピート拡大 ・もてなし体制の強化 ○定住の促進 ○高齢化に伴う健康寿命の増進 <p><特性を活かした展開強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多彩な健康スポーツ資源を活かした観光交流振興 <ul style="list-style-type: none"> ・自然、温泉、健康食材、多彩な競技用スポーツ施設等の活用促進 ・外国人への人気の高い冬季スポーツの活用促進 ○新たな展開方向の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・大都市等からの田舎居住志向への受け皿づくり ・日本版 CCRC 構想(健康時から介護時までの継続的なケアを提供する高齢者住宅づくり、アクティブ高齢者の地方移住の受け皿ともなる)を活かした地方創生の流れの活用促進 	<p>《観光》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災後、減少した外国人観光客の誘致のため、海外での観光PRや宿泊費助成を行うなどの取り組みにより、増加傾向に転じている。 ・2次交通の利便性確保のため、盛岡駅と八幡平・安比地区の無料シャトルバスの運行、盛岡・八幡平広域観光PRイベントなどを実施。これらの取り組みにより、観光客入込数は、回復傾向にある。 ・旧松尾鉱山などの歴史遺産をはじめ地熱発電所などエコツーリズムなどをメニューとする教育旅行や体験旅行の誘致に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人誘客促進事業、誘客キャンペーン事業、グリーンツーリズム事業、観光情報発信事業、観光イベント開催補助事業、八幡平・安比地区二次交通機関対策事業、訪日外国人誘客促進事業、外国人誘客観光案内素材多言語化事業、広告宣伝媒体を活用した観光振興事業など 	<p>●<u>健康リゾート強化プロジェクト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康運動・温泉・健康食等の滞在型観光パッケージの強化 ○健康増進関連商品の開発と提供の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を最大限に活かした健康料理、飲料、調味料、アロマ、美容等の様々な企画・開発 ・市内関連施設連携によるモデル商品提供の体制づくり(アンテナショップ兼務) ・健康・創作レストラン(空き家等活用) ○健康増進活動誘発の仕組みづくり(健康づくりマイレージ事業、健康活動誘発型金融商品など) ○健康志向を発展させた新たな取組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かした美味しい病院食の導入 ・ペット受入れ観光地としての環境整備や、ペットセラピーへの取組み ○まちなかの健康増進環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・花を活かした健康散策路のネットワーク化 ・コミュニティセンター等を活かした健康学習・測定・体操等の健康サロンづくり
	<p>《スポーツ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーフットボールやサッカーなどの合宿誘致のため、施設改修や維持管理などの環境整備やスポーツ合宿誘致補助金を創設し、スポーツのまち八幡平市として全国に発信し、合宿誘致に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツツーリズム推進事業、スポーツイベント開催支援事業など 	<p>●<u>広域スポーツイベント・合宿の拠点づくりプロジェクト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○冬季スポーツ体験カリキュラムの充実 ○広域連携による国際・広域スポーツイベント誘致や、スポーツ合宿の強化等による通年入れ込みの強化 <p>●<u>もてなし体制強化プロジェクト</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国人向け案内サービスの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・Wifi環境、外国語案内ツールやサイン整備 ・外国人向けの観光・体験・交流・宿泊パッケージの魅力強化 ○モバイル端末対応サービスの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・対応サイト強化 ・様々な情報提供、特典付サービス等の強化 ○アフターケア・リピーター特典等の充実

	<p>《宅地・住宅》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大更駅周辺の賑わいを創出するため、大更駅を中心としたコンパクトなまちづくりを目指し、基盤整備や商業の活性化、公共施設の整備などを計画。人的交流の拡大を図るため、各種事業に取り組んでいる。 ・木造住宅建築支援や住宅水洗化リフォーム支援により、住環境の向上を図り、市民の市内への定住と転入者の増加につなげる取り組みを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大更駅西口駅前広場整備事業、大更駅周辺環境整備（自由通路）事業、都市計画道路大更駅前線整備事業、木造住宅建築支援事業、住宅水洗化リフォーム助成事業、高齢者及び障害者にやさしい住まいづくり推進事業など 	<p>●日本版DMOによる教育旅行活性化プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関係者連携のもと、教育旅行メニューづくりを実践する組織づくり（仮称・観光まちづくり実践倶楽部） ○地域資源を活かした感動体験メニューづくりの企画・実施による教育旅行需要の拡大 <p>●日本版CCRC構想プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康時から介護時までの継続的なケアを提供する、心豊かに暮らせる高齢者住宅の受け皿づくり ○家庭菜園での収穫や、地域資源を活かした創作活動など、生き生きとした暮らしの支援 ○アクティブシニアによる多彩な交流や、健康維持活動、地域貢献活動等の促進 ○大学連携による生涯学習・多世代交流支援 ○空き家等を活用した施設展開の拡大 ○上記を通じた市内高齢者の元気づくり、健康なまちづくり等の推進
<p>【目標③】</p> <p>★八幡平市の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育む</p> <p>～子どもたちや大都市等の若者・女性・子育て層が住みたくなる定住促進拠点づくり～</p> <p>ふるさと八幡平市への誇りと愛着を育み、女性や若者、子ども、子育て層が暮らしやすい定住環境の充実</p> <p><基本的課題への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○出産増につながる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・地元結婚数の増大、早婚の増大 ・出産・子育てしやすい環境づくり、共働き支援 ○若者や女性の流出抑制や、UIターン活性化への魅力強化 <ul style="list-style-type: none"> ・通学・教育環境の充実 ・魅力ある雇用環境の充実 ○子どもから高齢者まで居住継続可能な定住環境の充実 ○まちや地域の魅力に対する理解醸成の重要性 <p><特性を活かした展開強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○八幡平市の豊かな自然や絆を活かした特色あるまちづくりや環境、ライフスタイルに、魅力や価値を感じるファンを積極低に呼び込む（コアなファンを増殖する）まちづくり 	<p>《保健／医療》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうすぐパパママ教室などの講習会等の実施による子育ての不安解消や特定治療費助成による不妊に悩む方への経済的な支援、乳幼児健診、予防接種などの出産・子育て支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不妊に悩む方への特定治療費助成事業、母子保健事業、妊婦乳幼児健康診査事業など 	<p>●若者等の定住促進プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大更駅周辺整備 ○空き家・別荘等を活用した低廉な住宅供給 ○女性や若者・子育て層が住みやすい定住団地 ○ひとり親家庭・単身者が住みやすい住宅提供 ○菜園付帯型住宅 ○新婚居住や家族近居の支援 ○一時居住・季節居住等のお試し居住の促進 <p>●子育て支援サポートプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療費助成（乳幼児、中学生） ○統合保育所整備、私立保育所整備 ○保育士等の確保支援 ○マタニティライフサポートの充実 ○子育て支援組織・体制の充実 ○自然や絆等を活かした、ゆとりと魅力ある教育プログラムの充実（地域学習、地域住民による講義など） <p>●出会い・縁づくりサポートプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出会い・お見合い集団イベントの活性化 ○八幡平市の広域プロモーション活動と連携した縁づくりイベントの強化 ○縁づくりをテーマとする観光・スポーツ等のイベントパッケージの強化 ○地域の魅力学習ツール・プログラムの強化 ○若者主体のイベント企画・開催
	<p>《児童福祉／母子父子福祉》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産祝い金の給付、保育料の軽減、小学生までの医療費無料化、通学定期購入費への助成などの保護者の経済的負担の軽減や保育士の適正配置などのための公立保育所の民営化や全学区での学童保育クラブの運営、子育て支援ヘルパー派遣など子育て環境の充実に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 妊婦乳幼児健康診査事業、未熟児養育医療給付事業、妊産婦医療費助成事業、乳幼児・児童医療費助成事業、出産祝い金支給事業、子育て支援ヘルパー派遣事業、子育て短期支援事業、つどいの広場事業、保育料の負担軽減、放課後児童健全育成事業、高等学校等通学定期購入費支援事業など 	
	<p>《地域福祉》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独身男女の出会い支援事業を実施し、2組の成婚に結び付けている。また、成婚に至らなかったものの、多くの参加者が出会いの機会を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出会い支援事業 	

<p>【目標④】 ★各地域の元気を活かしたコンパクトなまちづくりにより持続性を高める ～コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり～ ～地方創生を活かした八幡平市プロモーションの強化～ ～市民や地域が輝く、協働まちづくりの活性化～</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>持続性の高いまちづくりに向けて、各地域の拠点等を活かしたコンパクトなまちづくりや協働まちづくりの活性化とともに、八幡平市の魅力を内外に積極的に PR していく</p> </div> <p><基本的課題への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各地域の活力の維持増進につながるコンパクトなまちづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の拠点施設や機能集積を活かした、小さな拠点としての活性化と、交流活動の活性化 ・各地域や広域圏を結ぶ交通ネットワークの維持・増進 ・人口減少等に伴う遊休農地や空き地・空き家等の荒廃化の抑制 ・各地域における安心確保や見守り体制の強化 ○定住の促進 ○市民満足度を重視した、協働まちづくりの活性化 ○広域連携による効果的なまちづくり ○地方創生に伴う、より一層の都市間競争の激化の中で、持続性を確保するためのプロモーション活動の強化が重要 <p><特性を活かした展開強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地熱発電ほか、再生可能エネルギーの取組みを様々に行っており、豊富な自然環境・資源を活かした一層の取組み強化が望まれる 	<p>《公共交通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内にコミュニティバスを巡回させ、市民の移動手段の確保に努めている。また、花輪線の利用促進のため、花輪線利用促進協議会の活動に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八幡平・安比地区二次交通機関対策事業、コミュニティバス運行事業、公共交通機関利用促進事業など 	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>地域拠点（小さな拠点）等活性化プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> ○大更駅周辺賑わい創出事業 ○西根新病院整備を活かした医療体制の充実 ○旧庁舎利活用促進プロジェクト ○その他、各地域の地域交流施設等を活かした魅力ある環境の充実 ●<u>自然の恵みと共生する資源循環型まちづくりプロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギー・省エネルギー拡充 ○地産地消の推進 ●<u>八幡平市全国プロモーション・プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> ○プロモーションツール作成（まちの魅力や戦略的なまちづくり方向をわかりやすく PR する、見たくなる冊子など） ●<u>協働まちづくり活性化プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> ○上記全ての施策に関連した地域住民等の参加促進により、各地域における市民等の活動量（交流や地域貢献活動など）を増大⇒活動人口の増大（プロジェクトの実現や、その後の企画・運営・地域活性化への拡大展開、関連施設利用やイベント等への参加促進、地域貢献活動への参加など、できることから協働の取組み・活動を活性化） ●<u>広域連携強化プロジェクト</u> <ul style="list-style-type: none"> ○仮称・盛岡広域連携中枢都市圏ビジョンに基づく広域連携協定による、広域的課題の解決に向けた広域連携施策の実施 ○上記全ての施策に関連
	<p>《自立したコミュニティ活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の主体的な活動を支援するため、各地区公民館を廃止し、コミュニティセンターを設置。地域振興協議会が行う生涯学習や地域活動を市と協働して進めているとともに、地域づくり一括交付金により、活動の支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協働によるまちづくり推進事業、自治会活動支援事業など 	
	<p>《資源エネルギー》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡平及び安比地域において民間事業者が進めている地熱発電開発に支援し、再生可能エネルギーの推進に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再生可能エネルギー推進事業 	
	<p>《広域行政の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市を中心とする連携中枢都市圏構想により、広域内の市町間連携を強化。盛岡広域圏が人口のダム機能となり、圏域の人口減少を防ぐ取り組みを進めている。 		